

「令和5年江別市はたちのつどい」 江別市長 式辞

皆さんこんにちは。

私は、江別市長の三好 昇です。

本日晴れて、「はたちのつどい」を迎えられました皆さん、誠におめでとうございます。

また、皆さんを今日まで愛情込めて育てられましたご両親をはじめ、ご家族の皆様にも、心からお喜び申し上げます。

そして、実行委員会の皆様におかれましては、コロナ禍での式典開催となり、感染防止対策への配慮など、開催にあたって悩まれ、ご心労があったことと思います。今日までの準備、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスは一昨年から、変異を繰り返し、新たに報告されたオミクロン株が猛威を振るうなど、依然として、終息は見えず、皆様におかれましても、進学や就職に大きな影響があったことと思います。

ここ三年間のコロナ禍は、急速なデジタル化が進行させ、学び方、働き方も変わり、オンラインによる学びや経済活動は、普通となりました。

今や、地域経済を変え、まさしく、社会の変革期、歴史的な転換期にあると思います。

皆さんは、この歴史的な転換期に、人生の節目を迎えたことになります。

本日の「はたちのつどい」を機に、皆さんには社会の一員となることを改めて認識していただくとともに、これからの江別市を支える市民としての自覚を持っていただきたいと思います。

そこで、本日、私からは、「社会参加」と「感謝の気持ち」の二点について、お話をしたいと思います。

まず、一点目は「社会参加」です。

現在、皆さんのような将来世代の最大の課題は、社会保障制度と言われております。

江別市においても、高齢者と呼ばれる六十五歳以上の方が、全体の三十一パーセントを超え、三人に一人が高齢者という時代が近づいております。皆さんの時代は、一人で一人のお年寄りを、支えることになると言われております。

社会保障について「今は関係ない」「最後は誰かが調整してくれる」と思っていないでしょうか。

社会保障の基本は、身近な「つながり」です。

皆さんの周りに、孤独な人が増えていると、感じることはないでしょうか。

外出できないお年寄り、仕事や大学を辞めた若者、子育てに苦悩している保護者など、人と人との「つながり」を感じられない人が、増えていると言われております。そのような人達に対し、何が出来るのか、考えてみてください。

もし、自分が同じ立場だったら、どのように接して欲しいか、想像してみてください。そして、不安を和らげ、悩みを抱えながらも、希望を失わず生きていくために、どのような制度、仕組みが必要なのか、考えることから始めてみてください。

この様に、自分の身の回りのことから実践することが、正に社会保障の土台となります。

もう一点が「感謝の気持ち」です。

私が成人式に出席した際のあいさつの中で聞いた言葉で、今でも心に残り、毎年、お話ししているので是非、紹介したいと思います。

神風特攻第七十七振武隊 相花 信夫(あいはな のぶお) 少尉の話です。この場に相応しい話か迷いましたが、親への感謝の気持ちが強く表れておりますので、その一説を要約して紹介をいたします。

「母上お許してください。」

攻撃隊振武隊に加へられ、国の恩に報いることが出来ました。

父母上、信夫は勇躍戦地に行きます。

父母上、信夫は子としてあるまじき無礼な言葉遣いを遂に最後まで矯正せず、慚愧に堪えません。

母上、六歳の時より育てて下され、生母以上の母上に対し「お母さん」と呼ばなかった信夫。

母上は如何程淋しかったでしょう。

呼ぼうと幾度も思いましたが、面と向かっては、恥ずかしいようでは言えませんでした。

今こそお母さんと呼ばせて頂きます

「お母さん」。

(中略)

人生五十年、自分は二十歳まで長生きしました。

残りの三十歳は父上母上に、半分ずつ差しあげます。

父母上、では行きます。

このように先の大戦では、多くの若者が遺書をしたためて短い生涯を終えていきました。

生きて親孝行したかったのではないのでしょうか。

今日の日本の平和と繁栄があるのは、ふるさとを思い、国を思い、親を思い、家族を思って、多くの若者が命をかけて守ろうとしたお蔭で成り立っております。

勿論、戦争は二度とあってはなりません。

しかし私達は、若者の守ろうとした思いを大事にして、その気持ちに感謝しなければなりません。

そして、皆さんにお願いがあります。

今日まで、大切に育ててこられたご両親、ご家族の方に、感謝の気持ちを伝えてください。

江別市では、市役所前庭に「平和の碑」を建立し「平和都市」を宣言しております。この宣言を契機として、市民の皆様が平和の尊さについての理解を深め、一人一人が平和を作り出すことに強い意志を持ち、行動していくことを願っております。

昨年二月には、ロシア連邦がウクライナに軍事侵攻し、数多くの一般市民の尊い人命が奪われ、平和都市である江別市の代表者として強く抗議を行いました。

このように世界の各地では、人々の願いに反し、争いが絶えません。

なぜ争いがなくなるのでしょうか。

その理由の一つに、自分と他者とへの違いへの、理解不足、許容性の欠如があるのではないのでしょうか。

お互いの個性や違いを理解し、自分にはない良さを見つけ、尊重する。

このことは争いに限らず、身近な問題も同じです。

皆さんは、これから多くの出会いを経験します。

自分と他者。それぞれの違いを当然のものとして認識・理解し、寛容の気持ちを持って、お互いを尊重することに心掛けてください。

そこから、それぞれの個性や違いを活かす方法が、必ず生まれてくると思います。

最後になりますが、これからの皆さんのご活躍を心からお祈り申し上げ、私からのお祝いのことばとさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

令和5年1月8日（日） 江別市長 三好 昇